



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社フォイ・マシナリー

5

2009年7月ベンチャーキャピタル・タックパートナーズ CEO 伊藤誠氏のもとに、同業者（スウェーデンの VC）から投資案件が持ち込まれた。

投資先は㈱フォイ・マシナリーといい、半導体製造の前工程で使われるエッチング装置で先端の微細化技術開発に成功した研究開発型ベンチャーで、2009年11月に東証マザーズに上場
10
予定とのことだった。上場前に最後の VC 追加投資を 10 億円単位で実施するので、乗らないか
というのである。スウェーデンの VC は既に投資済みで、今回は応募しないということだった。

伊藤氏は 2～3 日中に結論を出し、先方に返答することになっていた。伊藤氏は㈱フォイ・マシナリーの財務諸表と会社概要を検討し始めた。

15

【㈱フォイ・マシナリー会社概要】

[設 立] 1994 年 10 月

[製 品] プラズマ技術を応用した 300mm ウェハ用絶縁膜エッチング装置の開発販売

[社 員] 社長は NEC も東京エレクトロンを経て現職。専務は野村証券、ソフトバンク・インベ
20
ストメントを経て現職。社員数 196 人、平均年齢 32 歳、平均給与 432 万円

[販売状況] 全量を台湾、中国、韓国等の半導体メーカーに販売。ただし初号機は販売先に設置（こ
の時点で売上計上）してからプロセス・インテグレーションが行われるため、売掛金
回収は 1 年半から 2 年半先になるという

[2010 年 3 月期予想] 売上高、経常利益ともに 10% 強の成長予想

[子 会 社] 台湾、韓国、米国に子会社設立

25

[株主構成] IIBV（スウェーデン）69% を含む 78% が VC による投資。その他は役員、従業員など

[借 入 金] 長期は日本政策投資銀行の主幹事によるシンジケート・ローン。ただし財務制限条
項付き（二期間赤字でない、借入は売上債権を超えないこと etc）短期借入はりそな、
横浜、みずほ銀行など

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクール山根 節が、公表資料によってクラス討議の資料とするために作成した。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学
ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail: case@
kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/> へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、
いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、
写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。Copyright© 山根 節（2010 年 6 月）